

スタッフの  
熱い思いが  
「RUN」する!

## 認知症の理解を深めるイベント

# 「RUN伴2017」に参加して



私たちは地域の方、施設にお住まいの方、施設をご利用される方の相談や介護などで支援する仕事をしています。この仕事に就いている人は、誰かの役に立ちたいという熱い“思い”を持っていて、千葉県福祉援護会ではその思いを大切にできる環境が整っています。

超高齢化社会の日本においては、認知症の方の数が2025年には700万人を超え、なんと65歳以上の5人に1人は認知症になると予測されています。そんな中、EPA介護福祉士候補者として来日し介護福祉士資格を取得したスタッフから、あるイベントに参加したいという相談がありました。認知症について市民が考えるきっかけをつくるために参加者が街をRUN（走ったり、歩いたり）するという全国規模の認知症啓発イベント「RUN伴<sup>ランとも</sup>」です。

武石理事長も「スタッフの思いを大切にしたい」と法人全体にRUN伴のイベント情報を発信し、参加を希望する職員を応援しようという動きが起こりました。各施設から手を挙げた計26名がそれぞれ居住する地区にエントリーし、5市（千葉市・船橋市・柏市・松戸市・習志野市）6チームで千葉県内の各地をRUNしました。

参加者が「普段は違う分野（障害・高齢・保育）の仕事をして

いるが、同じ目標に向かって行動を共にしたことで一体感を感じることができた。また、社会への貢献を肌で感じることで満足感を得た」と満面の笑みで話してくれたのが印象的でした。こうした通常業務以外のことにも関わらずスタッフの何かをしたという熱い思いを受け止め、環境を整えていただいたことに感謝しています。心の充実感が明日への仕事のエネルギーにもなったと感じることができました。

大竹大



松戸チーム



習志野チーム



## RUN伴に 参加しての感想

同じ目的を持った仲間と絆をつないで走ることで、参加者同士が一体感を持ってたと感じました。この活動に参加できた感謝の気持ちと共に、認知症の方が暮らしやすい町になればと思います。

機会があればまた参加したいです。

ローゼンかみやま保育園 押田 憲一

晴天のもと、とても気持ちよく走ることができました。ゴールセレモニーにも参加しましたが、こどもからお年寄りまでみなさん笑顔で楽しませていて、一体感と素晴らしさを感じました。思い出に残る素敵一日になりました。

オーヴェル 宮前 篤

RUN伴千葉市内エリアに参加しました。たくさんの方が一つの目的を持って行動することはとても熱く、素敵なことだと感じました。これからも福祉について発信したり地域福祉に報恩したいと思います。

ローゼンホーム上山 増田 祐介

人と人の繋がりはとても素敵なおことで、助け合いの中で一人の笑顔が世界の笑顔になる。

RUN伴に参加できて本当に良かったです。次回もまた参加したい。

式番館 アプリ-ヒヤダト

認知症についてあらためて考える機会となりました。

もっとたくさんの人にこのイベントを知っていただき、大きな力となるよう、地域との繋がりを広げていきたいと思っています。

誠光園 中村 正教

